

1 小 学 校

児童数 61,441 人で、増加
長期欠席者数は増加

表 1 小学校の推移

(単位：校、級、人、%)

年度	A 学校数	B 学級数	C 児童数	D		1学級当たり		教員 1 人当たり		女子教員 の占める 割合	
				対前年度 増減率	教員数	対前年度 増減率	児童数 C / B	対前年度 増減数	児童数 C / D		対前年度 増減数
平成14	237	2,369	60,964	0.6	3,673	1.3	25.7	0.4	16.6	0.3	70.4
15	235	2,389	61,053	0.1	3,720	1.3	25.6	0.1	16.4	0.2	70.5
16	234	2,432	60,990	0.1	3,721	0.0	25.1	0.5	16.4	0.0	69.8
17	224	2,459	61,088	0.2	3,707	0.4	24.8	0.3	16.5	0.1	69.1
18	211	2,448	61,441	0.6	3,669	1.0	25.1	0.3	16.7	0.2	69.1
国立	1	12	477	0.6	17	0.0	39.8	0.2	28.1	0.1	23.5
公立	210	2,436	60,964	0.6	3,652	1.0	25.0	0.2	16.7	0.3	69.3

(1) 学校数

学校数は前年度より 13 校減少（廃校が 17 校（富山市 1 校、氷見市 6 校、黒部市 4 校、射水市 4 校、上市町 2 校それぞれ廃校）、新設校が 4 校（氷見市 1 校、黒部市 1 校、射水市 2 校））し、211 校（本校 209 校、分校 2 校）となり、このうち休校は 5 校（本校 3 校、分校 2 校）であった。

設置者別にみると、国立が 1 校、公立が 210 校となっている。

市町村別では、富山市 68 校、高岡市 28 校、射水市 16 校等となっている。

学級数別学校数をみると、7 学級の学校が 28 校（構成比 13.3%）で最も多くなっている。

学級規模別学校数では、11 学級以下（小規模校）が 109 校（構成比 51.7%）、12～18 学級（標準校）が 72 校（同 34.1%）、19 学級以上（大規模校）が 30 校（同 14.2%）となっている。

1 校当たりの学級数は 11.6 学級（前年度 11.0 学級）で、全国の 12.1 学級を下回っている。

（表 1、統計表 2、11）

(2) 学級数

学級数は 2,448 学級で、前年度より 11 学級減少した。

編制方式別にみると、単式学級が 2,197 学級（構成比 89.7%）、複式学級が 34 学級（同 1.4%）、75 条の学級が 217 学級（同 8.9%）となっている。

（表 1、統計表 3）

(3) 児童数

児童数は 61,441 人（男子 31,356 人、女子 30,085 人）で、前年度より 353 人（0.6%）増加した。

その推移をみると、昭和 33 年度に 159,700 人とピークに達したが、その後は年々減少し、昭和 48 年度には 87,558 人（ピーク時の 54.8%）に落ち込んだ。昭和 49 年度からは増加し始め、昭和 57 年度には 109,983 人となったが、昭和 58 年度からは再び減少傾向が続いていた。本年度は昨年度に引き続き、61,441 人（ピーク時の 38.5%）と増加した。

学級編制方式別では、単式学級児童が 60,623 人、複式学級児童が 319 人、75 条の学級児童が 499 人となっている。

市町村別では、富山市 23,504 人、高岡市 9,762 人、射水市 5,641 人等となっている。対前年度増減数をみると、氷見市 43 人（1.6%）、上市町 41 人（3.2%）、朝日町 38 人（5.4%）、南砺市 23 人（0.8%）など 5 市町村で減少している。前年度より増加したのは、富山市 253 人（1.1%）、高岡市 81 人（0.8%）、砺波市 65 人（2.2%）、射水市 49 人（0.9%）など 10 市町村であった。

平成 17 年度 5 月 1 日以降に合併をした市町村の対前年度児童増減数、増減率については平成 17 年度の市町村別児童数を合算し、合併後の市町村児童数に換算して計算した数値である。

1 校当たりの児童数は 291.2 人（前年度 272.7 人）で、全国の 314.2 人を下回っている。

1 学級当たりの児童数は 25.1 人（前年度 24.8 人）で、全国の 25.9 人を下回っている。

（表 1、2、統計表 4、14）

表 2 男女別及び学年別児童数の推移

（単位：人）

年度	計	男子	女子	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
平成14	60,964	31,191	29,773	10,059	10,592	9,837	10,085	10,185	10,206
15	61,053	31,076	29,977	10,324	10,052	10,570	9,820	10,095	10,192
16	60,990	31,124	29,866	10,090	10,330	10,066	10,592	9,818	10,094
17	61,088	31,148	29,940	10,123	10,140	10,331	10,070	10,580	9,844
18	61,441	31,356	30,085	10,173	10,117	10,164	10,329	10,079	10,579

（4）教員数及び職員数

教員数（本務者）は 3,669 人（男子 1,135 人、女子 2,534 人）で、前年度より 38 人（1.0%）減少した。教員総数に占める女子教員の割合は昨年度と同様の 69.1%となっている。

1 教員当たりの児童数は 16.7 人（前年度 16.5 人）で、全国の 17.2 人を下回っている。

1 校当たりの教員数は 17.4 人（前年度 16.5 人）で、全国の 18.3 人を下回っている。

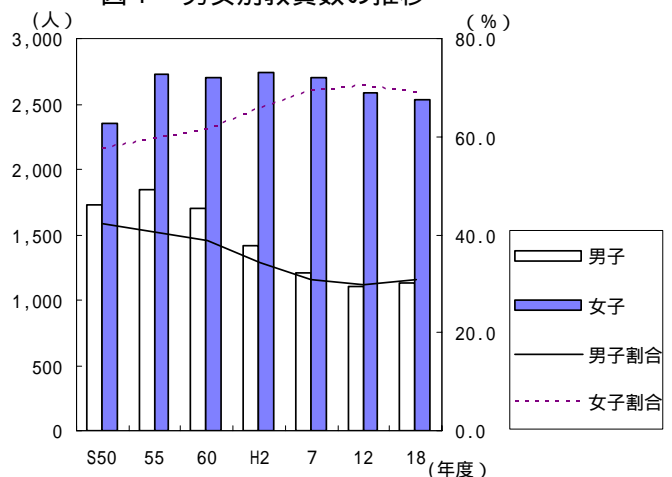
職員数は 958 人で、前年度より 41 人減少した。（表 1、3、図 1、統計表 5、6、19）

表 3 男女別教員数

（単位：人）

年度	計	男	女
平成14	3,673	1,088	2,585
15	3,720	1,097	2,623
16	3,721	1,123	2,598
17	3,707	1,144	2,563
18	3,669	1,135	2,534

図 1 男女別教員数の推移



(5) 理由別長期欠席者数

平成 17 年度間の 30 日以上の長期欠席者数は、平成 16 年度間より 16 人 (3.9%) 多い 426 人で、理由別では「不登校」が 184 人 (構成比 43.2%) で最も多く、次いで「病気」が 129 人 (同 30.3%)、「その他」が 112 人 (同 26.3%) となっている。

全児童数に占める長期欠席者の比率は、全国より 0.12 ポイント低い 0.70% で、低い順に全国第 16 位 (前年度第 11 位) であった。

また、全児童数に占める「不登校」の比率は、全国より 0.02 ポイント低い 0.30% で、低い順に全国第 21 位 (前年度第 19 位) であった。

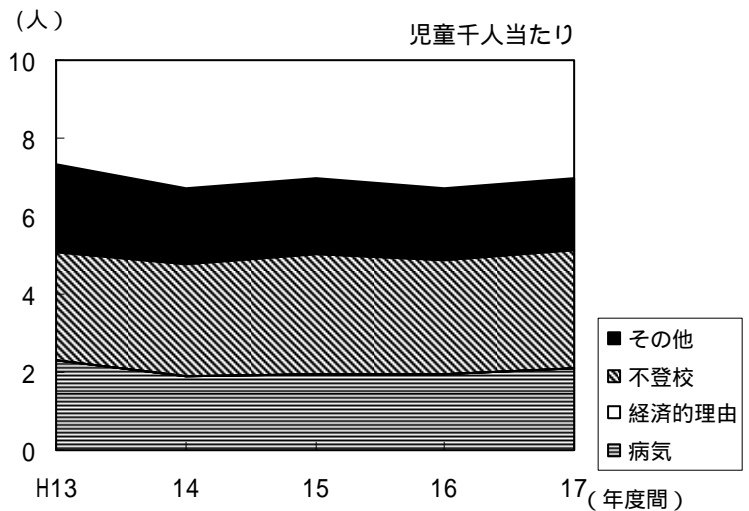
(表 4、5、図 2、3、統計表 8)

表 4 理由別長期欠席者数 (単位:人)

年度間	総数	欠 席 理 由			
		病気	経済的 理由	不登校	その他
平成13	450	142	1	168	139
14	409	116	-	174	119
15	427	119	1	188	119
16	410	119	-	178	113
17	426	129	1	184	112

注) 「その他」には、「欠席理由が2つ以上(「病気」と「不登校」など)あり主たる理由を特定できない者」や「保護者の無理解・無関心から欠席している者」が含まれている。

図 2 長期欠席者の理由別推移



$$\text{児童千人当たりの長期欠席者数} = \frac{\text{各年度間の長期欠席者}}{\text{各年5月1日現在の児童数}} \times 1000$$

表 5 全児童数に占める不登校の比率 (単位:%)

年度間	富山県	全 国
平成 13	0.27	0.36
14	0.29	0.36
15	0.31	0.33
16	0.29	0.32
17	0.30	0.32

$$\text{比率} = \frac{\text{各年度間不登校の欠席者数}}{\text{各年5月1日現在児童数}} \times 100$$

図 3 長期欠席者の推移

